

過疎過密にかかわる寺院の適正配置を考える

(日蓮宗現代宗教研究所顧問)

新聞 智 照

はじめに

① 過疎・過密の言葉の使用に混乱のないように。

人口過疎地の寺院Ⅱ人口に対し寺院過密となる

人口過密地の寺院Ⅱ人口に対し寺院過疎となる

② この問題の対応に、四方向から相補的に進める必要がある。

A・宗門全体の寺院配置・現勢を把握する。

B・過疎地等、急を要する寺院から順に、合寺・移転等を進める。

C・法器育成の中で、時代適応・国内開教の観点を重視する。

D・上記項目に応ずる予算措置をする。

A・宗門全体の現勢配置の把握

① 全国都道府県市町村の人口分布とその増減の傾向を調査。

② 各都道府県市町村の本宗寺院の現状（位置、等級、信徒教、住職・担任・教導の在不在等）の一覧表示。

③ ①と②を組み合わせた全国地図（距離比例地図と人口比例地図と）を作る。各寺をその地理上の位置に丸い点で表示し、等級・信徒数に応じて点の大きさ（面積）を比例させる（信徒五百名の寺は、百名の寺五カ寺に相應すると、単純に表す）。

④ この地図から、どの地域に教線拡張の可能性があるか、合寺の必要があるか等の判断がしやすい。あくまで各寺・各教師の自主性によるが、宗門全体としての総合的な方策を立てる。

⑤ この資料地図は当然三～五年ごとに修正しなければならない。資料作成については、コンピュータの利用により、さほど難儀ではないと考える。当然、若干名のスタッフが必要である。

B・合寺・移転等を進める

① 小寺師のレポートにあるように、すでに、平成元年現宗研による『過疎地寺院調査報告』が出ており、平成八年過疎地寺院対策懇談会による提言があり、平成六年以降合寺の事例が十七件あり、その十七件寺院へ現宗研がアンケート調査を実施している。

② すでに進み出しているので、担当部署を定め、該管区と緊密に協議し、宗門行政機構の中で実際の対応を進める。

(イ) 信徒を含め関係者の合意による二ヶ寺以上の合寺。

(ロ) 過疎地から有望地への移転。

(ハ) 長年にわたり任職不在（代務任職）の寺に宗門より意欲のある教師を派遣する。

どの場合も、事後数年のチェックと資金補助が必要であろう。

③ 「過疎地寺院の活性化」について小寺師が具体例を三例あげているが、寺院の活性化は宗門全寺院にとつても必要である。

C・教師教育と教化研究交流の充実

① 寺籍を新しい地に移転した場合は、実質的には国内開教である。それらの特殊例だけでなく、既存の全寺院にとつても、時代は少子高齢社会に向っているので、寺の経営はきびしい時代を迎える。仏教各宗各寺院が時代の変化に遅れをとっていることは、世評の通りであろう。

② したがって、法器育成のみならず、教師再教育、布教伝道のみならず、寺門経営等についても、互いに研究交流する努力工夫が一段と必要である。宗門の教育制度、教育内容（カリキュラム等）の再検討、充実なくしては、寺院の適正配置は「魂入れず」になってしまうのである。

D・予算の裏づけ

① A、B、C項の実施にはスタッフ選定と共に、予算の裏づけがなくてはできない。宗門予算全体の見直しも、たえず検討すべきであろう。

おわりに

以上述べてきたことは、すでに永年にわたり、私を含めてさまざまな方より提唱されてきたことであろう。実行力が不足しているだけともいえる。今回現宗研からの提言が「聞きおく」だけにならないよう、強く願うものである。